

浜田市の中山間地域を中心に米軍機とみられる低空飛行が依然続き、市内全域において、日々、爆音や事故等の不安に悩まされています。特に「エリア567」における訓練空域にある島根県浜田市旭町の「島根あさひ社会復帰促進センター」が爆撃訓練（模擬対地攻撃訓練）のターゲットとされているのではないかと思われる程、その周辺は騒音被害が頻繁に繰り返され、隣接する「あさひ認定こども園」上空では、6月27日に開所以来の一番大きな飛行音により、多くの子どもたちを恐怖させたのに続き、8月2日にも長時間にわたって轟音が鳴り響き、多数の子供たちが耳をふさぎ、怖いと震えるなか、怯えながら生活をしています。そのエリア内には学校・保育施設をはじめ、介護施設や医療施設なども多数あり、病気療養中や育児中の方、乳児や子供、高齢者にとって、突然聞こえてくる轟音は、極度のストレスを受け心身や生活に悪影響を与え続けています。

また、先日10月22日（月）18時から19時30分の夜間にも当市旭支所屋上に設置している騒音測定器は、70dB以上の騒音を20回観測し、最大測定値は82.4dBを記録しています。住民からも「病人がいるので困る。」「何とかして欲しい」との切実な訴えが多数あり、昼夜を問わず続く飛行音は、社会的弱者の皆さんはもとより一般住民の皆さんも我慢の限界をはるかに超え、とても容認できません。

今年の10月末までの305日間で騒音のあった日は、77日間を数え、さらに45日間は午後6時以降であり、休日の飛行も17日間を確認しています。その内、騒音測定器で70dB以上の騒音を観測した日は25日に及び、最大測定値は97.6dBとなっています。

さらに平成23年11月2日以降、御基地に対し5回に亘って要望書を直接送付しておりますが、一度も回答がありません。防衛省に対する事実確認に対しても、「承認されている訓練空域で訓練を行っていた。」との回答があるだけで、全く誠意がない対応が続いています。

貴職におかれましては、訓練実態を明らかにするとともに、自国の学校や福祉施設、医療機関上空を同様に飛行された場合を想像し、日々繰り返される低空飛行訓練によって、激しい騒音被害が平穏な生活を乱している実情と、米軍機による事故に対する不安の中で生活しているという住民の心情を自分たちのこととして考え、市民生活に悪影響を与えている低空飛行訓練を中止するよう強く要請します。

2012年11月12日

アメリカ合衆国

海兵隊 岩国航空基地司令官

ジェームス・C・スチュワート大佐 様

日本国 島根県浜田市長 宇津 徹 男